

市報

# よこて

2005年10月15日号 創刊号

笑顔の中に新  
「横手市」





# 新横手市誕生

県内初の都市一体合併が実現

十月一日、横手市平鹿郡の八市町村が合併し、新「横手市」が誕生しました。新「横手市」は、県内で初めて郡市一体による合併が実現。県内第二の人口を有する県南の一大拠点都市として生まれかわりました。

新市発足となつたこの日は、市役所本庁舎(南庁舎・北庁舎)と八つの地域局で、開庁を祝う序幕が行われました。

このうち、本庁南庁舎で行われた開庁式には、

旧市町村長や旧議会議長、職員など約百五十人が出席。はじめに南庁舎の銘板序幕が行われ、次に備前雄一横手市長職務執行者が「本日は横手平鹿八市町村が合併し、県下第二の市として新『横手市』が誕生する記念すべき日。郡市一体の式辞を述べる備前横手市長職務執行者



旧市町村長らにより行われたテープカット

合併に向け、これまで心温まるご協力とご支援をいただいた皆さんに感謝したい。それぞれの地域の輝かしい歴史と伝統、文化を継承し、「豊かな自然・豊かな心・夢あふれる田園都市」の実現に向け、各分野における施策・事業を積極的に展開していきたい」と式辞を述べました。その後、旧市町村長らがテープカットを行い、新市発足と開庁を祝いました。

平成十五年三月に合併協議会が発足してから二年半。多くの困難を乗り越えて誕生した新「横手市」は、さまざまな分野の発展に限りない可能性を秘め、歴史の第一歩を踏み出しました。

祝

横手市誕生



開庁を祝い銘板を序幕(写真は本庁南庁舎 「旧横手平鹿広域交流センター」 )



旧市町村長らにより行われたテープカット



## 新「横手市」のデータ

◆面積(km <sup>2</sup> )	693.59 km <sup>2</sup>
◆人口(H17.9.1「秋田県人口流動調査」)	104,801 人
◆人口(H12.10.1「平成12年国勢調査」)	109,004 人 (男性 51,857 人) (女性 57,147 人)
◆年少人口(0歳～14歳)	15,033 人
◆生産年齢人口(15歳～64歳)	65,310 人
◆老人人口(65歳～)	28,661 人
◆世帯数(H17.9.1「人口流動調査」)	32,463 人
◆世帯数(H12.10.1「平成12年国勢調査」)	31,572 人
◆産業人口(H12.10.1「平成12年国勢調査」)	55,817 人 (第一次産業 10,040 人) (第二次産業 17,082 人) (第三次産業 28,695 人)
◆農家数(H12.2.1「2000年世界農林業センサス」)	11,982 戸
◆専業農家	1,037 戸
◆第一種兼業農家	2,086 戸
◆第二種兼業農家	7,526 戸
◆経営耕地面積(ha)	1,713 ha
◆事業所数(H13.10.1「平成13年事業所・企業統計調査」)	6,357 件
◆従業者数(人)	47,395 人
◆製造品出荷額等(万円)	1,002 億 (H15.12.31「平成15年工業統計調査」)
◆商店数(H14.6.1「平成14年商業統計調査」)	1,984 店
◆商業の年間販売額(万円)	1,242 億
◆小学校(H16.5.1「学校基本調査」)	27 校 ・児童数 5,609 人
◆中学校	13 校 ・生徒数 3,145 人

## 開庁式

10月1日、横手市役所本庁舎と8つの地域局で開庁式が行われました。

地域局で行われた開庁式には、市民や職員らが参加。新しく「横手市役所」と刻まれた銘板の序幕や市民参加のテープカットが行われ、それぞれの地域で新「横手市」の門出を祝いました。



▶市民も参加し、開庁式を祝う  
(平鹿地域局)



▶テープカットで門出を祝う  
(土文学地域局)



▶中学生を交えてのテープカット  
(山内地域局)



▶生まれ変わった庁舎看板銘板  
(雄物川町役場)

## 閉庁式

9月30日、合併を次の日に控えたそれぞれの市町村で、閉庁式が行われました。

このうち横手市では、職員らが市民広場に集合。市民歌を斉唱し、五十嵐市長が市旗を降納しました。

また、雄物川町では、「愛する人へ10年後に贈る手紙」を入れたタイムカプセルの埋設が行われました。町内外から集まった973通の手紙は、鉄製の容器に入れられ、佐々木孝志町長らが土をかけて埋設。10年後の平成27年10月1日の開封を待つことになりました。

このほか、増田町では桜の植樹が、大森町では庁舎看板の降納が行われるなど、それぞれの市町村が思い込めた閉庁式を行い、長く親しんだ庁舎へ別れを告げました。



▲長い間のお務め、ご苦労さまでした  
(大森町役場)



▲ソメイヨシノの植樹が行われた  
(増田町役場)

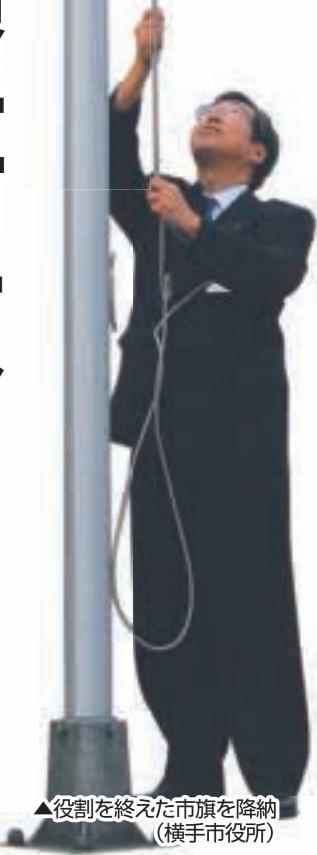


▲973通の思いを込めたタイムカプセルの埋設式  
(雄物川町役場)

# 横手市平鹿郡から新「横手市」へ

## 8地域で閉庁式・開庁式

それぞれの別れ、  
それぞれの第一歩



Yokote City Public Relations 2005.10.15 | 4

ボランティアは行政との協働活動の出発点

活動開始から四年、今では横手地

「横手除雪ボランティアの会」の仕掛け人である犬塚さんは、四国・香川県の生まれ。十四年前に横手に移り住んできた際、多くの人が「横手は雪さえ降らなければいいところなんですよ」と気遣ったという。ところが、スキーや登山を趣味に持つ犬塚さんにとって、東北地方の雪は楽しみそのもの。本人は、「不安は全

く感じませんでした」と語る。

一実際に生活してみると、雪による不安を抱えている人が意外に多くボランティアでの除雪作業が必要と考えました。市や知り合いに相談しましたが、「自分の家だけで精一杯。手伝ってくれる人はいないだろう」といった消極的な意見がほとんどでした」という。その後も継続的に働きかけた結果、市の支援もあってグループを結成、市の除雪サービスの資格要件に該当しない世帯などを対象に活動が始まった。現在では、趣旨に賛同した横手清陵学院高校バドミントン部や横手愛宕ライオンズクラブとも連携を図り順調に運営されている。

今後の課題については、「高齢化や核家族化で除雪を必要とする人が確実に増えます。逆に、昔は当たり前だつた「向こう三軒両隣」といったネットワークが希薄になり、ご近所に頼みたくても頼めない人がたくさんいるのではないか」と話す

「そのような時こそ、町内会など地域のネットワークを見つめなおすことが大切であり、行政のしつかりしたりードが必要です。行政と市民は遠慮し合う関係ではなく、互いに『こうあるべき』ということを主張しあうことが重要。そのためにも、それが雪とどのように付き合つていいかを考えなければいけません。よりいまちづくりのためには、市民と行政との密接な連携が不可欠になるでしょう」と協働のまちづくりを提唱する大塚さん。その姿からは、安住の地として選んだ横手に対する愛情がひしひしと伝わってきた。

# いぬづかはるつね 犬塚春恒さん

#### 除雪ボランティアの会(77歳・横手地域)

横手市除雪ボランティアグループ  
創設者（10月から横手除雪ボランティアの会に名称を変更）



# 農業後継者の ネットワーク強化を

思っています。合併がもたらす効果は目に見えるものばかりではないはずなので、ぜひ、これまで交流のなかつた農業後継者や農業従事者の皆さんと親交を深めたい」と話し、合併を自己研さんの機会としてとらえている様子が伺える。

農業後継者ではなく、若者の視点で合併への思いはどうか。

「県内第二の人口を有するとしても大きな市になることを考えると、自然に期待もふくらみます。これまで秋田市までわざわざ出向かなければいけなかつた娯楽施設等が、合併を機運に横手市内に進出することは考えられないでしょうか。そうしたものが交流人口を増加させ、雇用の場を創出し、ひいてはわれわれが生産する農産物等の消費拡大に繋がる可能性を秘めていると思います」と話し、農業のみならず、さまざまな分野での発展に期待を寄せてくれた。

トルコキキヨウやブブレ(セリ科)などを栽培し、品質の高い成果物を市場に提供している。

若き農業経営者として花き栽培を中心に農業に従事。成育研究にも力を注ぎ、花きの成育を調整する『シェード栽培』技術の研究で第17回全国農業青年交歓大会の大会会長賞を受賞。

# す す き と し ゆ き 鈴木和幸さん

## 農業後継者(26歳・増田地域)

「はつきりとした実感は沸きませんが、いよいよ自分も横手市民の仲間入りができたという思いです。これからはもっと生活の中で新市誕生を体感できるはずです」

新「横手市」が誕生した十月一日増田町の農業後継者として活躍している鈴木さんは、新市誕生の感想をこんな言葉で切り出した。

鈴木さんは平成十二年に宮城県立農業短期大学を卒業。卒業後は秋田県農業試験場で農業後継者技術習得研修生として花き栽培を学び、平成十四年に就農。就農と同時に家族絆を確立し、花き部門担当として新市誕生を体感できるはずです」と語る。

合併を記念して各地域でご活躍の皆さんにインタビューします(6ページ～13ページ)



横手

增田



に期待もふくらみます。これまでには秋田市までわざわざ出向かなければいけなかつた娯楽施設等が、合併を機運に横手市内に進出することは考えられないでしようか。そうしたものが交流人口を増加させ、雇用の場を創出し、ひいてはわれわれが生産する農産物等の消費拡大に繋がる可能性を秘めていると思います」と話す。農業のみならず、さまざまな分野での発展に期待を寄せてくれた。

# 新市全体で 新たな特産品開発を

雄物川町といえば、河川公園や温泉、自然など、なかでも「スイカ」は品質・量ともに全県一です。

「地産地消が叫ばれるなか、自分は地元の農産物にこだわってみようと試行錯誤を繰り返し、スイカを煮詰めて作るスイカ糖を使ったお菓子作りはじめたんです」と平成十四年の『ほほえみ直売所』オープン当時を振り返る佐藤さん。雄物川町で収穫された野菜などの素材を活かし、



雄物川町といえど、河川公園や温泉、自然など、なかでも「スイカ」は品質・量ともに全県一です。

添加物を入れないで作られたケーキやクッキーといった個性的な商品が町内外で評判を呼んでいる。

「おいしかったと言われることがいちばん嬉しい。観光客用のお土産品が少ない雄物川町で、自分のお菓子がお土産として定着できたらいいですね」と話す。

「合併した横手市の中には、食品加工の資格を持つている人がたくさんいます。地域のイベントがどんどん無くなってきており、市全体の特産品を集め、地区ごとの特色を活かし、みんなが集まるイベントを競い合うことにも繋がり、みんなが良きライバルとして、また、良き仲間として、自分の持ち味を更に引き出しができると思います。ナンバーワンではなく、自分にしか作れないオシリーワンを目指し、一丸となつてレベルアップしていくことが重要です」と合併後の展望を熱く語る



## 佐藤イチ子さん

横手市平鹿郡生活研究グループ協議会会長(61歳・雄物川地域)

平成14年、仲間と一緒に『ほほえみ直売所』を立ち上げたのをきっかけに、自宅に加工所を作り本格的にお菓子作りをはじめた。地元の農産物にこだわったお菓子などで地産地消に取り組んでいる。

昭和62年に浅舞婦人会に入会し、常任委員として活動。今年4月、浅舞婦人会会長に就任。人権擁護委員としても活動中。

## 佐野洋子さん

浅舞婦人会会長(59歳・平鹿地域)

「平鹿町は何をやるにもまとまりがいい地域だと思います。米、リンゴ、お酒などの特産品がありますが、お母さん方のアイデアとパワーを活かして成功した、浅舞婦人漬物研究会の『つけもの』は、今では平鹿町を代表する特産品になっています。また、豊かな湧水に恵まれた平鹿町には『浅舞絞り』という藍染めの伝統工芸があり、浅舞のお土産や記念品として好評ですよ」と平鹿町の魅力を語る佐野さん。

佐野さんが今年の4月から会長を務めている浅舞婦人会の会員は約五〇人。以前に比べ、仕事をしてい



合併後のつながりを活かし  
地域の伝統・文化を継承

る人が増え、若い会員も減ってきているという。

浅舞婦人会では、伝統の浅舞絞りを保存・継承する活動も行っており、現在会員は約二〇人。中学生に作り方や魅力を伝えているが、後継者が増えないのが現状。佐野さんは「自分は平鹿町の伝統工芸を覚えておきたいとすんなり入つたが、このままでは後継者不足で『浅舞絞り』が無くなってしまうのでは」と不安をのぞかせる。

「以前は地域の伝統工芸は地域が伝えて行かなければと考えていましたが、一つの市になつたのだから、平鹿町だけにこだわらず、ほかの地域の人でも覚えたい人がいたら教えて行きたい。婦人会も合併を期に、交流の幅が増えるでしょう。ネットワークを広げ各地域の婦人会と連携をとり、充実した活動ができるようにならねばなりません」と合併後の活動にも意欲を見せる。

「大きな市になつたからこそ、市

報には行政のお知らせばかりではなく、地道な活動をがんばっている人などを取り上げてもらいたいですね。合併したばかりでこれからだと思いますが、もっともっと人の顔の見える楽しい市報を作ってください」と市報への期待を寄せてくれた。



# 遊び心で地域ならではの 楽しい企画を



大森

十文字第一小学校女子ミニバス  
ケットボール部コーチ。昨年、  
全国大会3位という快挙を成し  
とげた強豪チームを「お姉さん」  
的な存在で支えている。(有)マル  
ナ力燃料勤務。

## 佐藤彰子さん

女子ミニバスケットボールコーチ(25歳・十文字地域)

「十文字と言えば、さくらんぼ祭りやはくちょう雪まつり、十文字映画祭などといった名物イベントが多くあります。なかなかうまく他市町村にその情報が広まっていないのではないか。参加してみると楽しいのに、宣伝が苦手というか、町内だけで盛りあがっているような感じを受けてします」という佐藤さん。

「十文字はほとんどが平地で交通の便が良いことから、立地条件としても優れています。新しい横手市となつても、南の玄関口という地理的条件にも恵まれていますし、今後は

大森地域の中でも比較的多く商店が立ち並ぶ位置に衣料品店の店舗を構え、地域の歴史を見守ってきた吉田さん。まずははじめに、市町村合併について訪ねると「正直なところ、合併したという実感はまだないです。生まれ育った大森町ですから、誇れるまちになつて欲しいという思いはあります。新横手市のウリは何と言つても大自然。東西に位置する山間部や良質の米を産出する平野部

など、いかに地域ごとの特色を出せるかがポイントでしょう」と分析する。

吉田さんは、地域の活性化を目的に設立された二つの団体「あきない大森21」とNPO法人「まちづくり大森」において、それぞれ代表と理事を務める。地域の商業の現状については、「個人商店の経営は非常に厳しい状態」と話す。その主な理由がいつでも手軽に入手できる環境」を挙げている。以前は、近所の商店やスーパー、マーケットに置いてあるものが旬のものであり、それしか手に入らなかつた。ところが今は、季節・場所を問わず何でも購入できる。これについては、「便利な時代ですが、希少価値という概念が薄れてきていることについては、残念な気がします」と話し、逆にそれを積極的に捕らえている。このような時代だからこそ、他では手に入らない、その地域ならではの商品を作

つて顧客に提供することは非常に価値があり、それが特色あるまちづくりという点でも通じるものがあると吉田さんは訴える。

最後に「大森町中心部活性化施設」として整備した『赤レンガ蔵』についても、いかに活用していくかが課題となっています。地域の活性化という問題は、すぐに答えの出せるようない單純な問題ではないですが、まずは誰よりも自分が楽しめる面白いことを考え、それを実行に移していくことが一番重要ではないでしょうか」と、まちづくりへのヒントを語ってくれた。

## 吉田仁一さん

あきない大森21代表(51歳・大森地域)

衣料品店を経営し、みずから店舗に立つ。平成13年からはあきない大森21の代表を、平成16年からはNPO法人まちづくり大森の理事を務める



◆合併記念インタビュー

次代を担う子どもたちに  
誇りと夢あるまちづくりを

「これまでにない大きな交流の動きが出てくると思います。バスケットの交流試合にしても、広範囲な活動になりますし、交流が深まれば、そこから子どもたちは、これまで以上に環境の違いや人と人との関わり方など、いろんな事を学んでいけるのではないかでしょうか。

その他のイベントについても、八市町村という大きな力が集まることが多い、これまでとは違つた、より規模の大きく、より特色あるものがでてくるでしよう。そうした変化を見て、参加していく事は地元の人にとって刺激的な事ですし、こう

## 十文字



した相乗効果が、みんなが楽しめるイベントや祭りというものを新たに生み出していくのではないでしようか。次世代の子どもたちへ自信を持つて伝えていけるまちづくり。そのためにも、まずは大人である私たちが自分の暮らすまちの良さを見つめ直し、生かす道しるべをつくり、もその中の一員として、少しでもまちづくりに貢献していくたら」と目を輝かせて語ってくれた。

# 合併しても地域単位の元気が何よりも大切

「今の大雄村の商店街は大型店に押され、非常に厳しい状態。報道でも、大雄村だけでなく全国的に商店街に活気がなくなつてきていると指摘されています。しかし、若者は車で遠くまで買い物に行けても、大雄村のようにお年寄りの人口が多い地域では、身近な商店街へ買い物に来られる方も多いため、大雄村でもこの商店街を次の世代へ残していくかなければ」と商店街の活性化について語る紙が所



に意欲を見せる小松さん。

合併により大雄地区が大きな市となることに対する見解は、「八市町村が一緒になるのですから、ますます互いに情報や人、物の交流が盛んになるでしょう。そうなると、つい都市部へ目を向けがちになりやすいのですが、一番忘れてはいけないのが、地元が元気な事ではないでしょうか。地集客力の見込めるイベントや祭りを開催したり、情報交換や交流の場となる買い物環境をつくっていくことがまず必要です。幸いにも、大雄にはサマーフェスティバルのような大きなイベントもありますし、いずれは地域全体を巻き込んだ環境づくりをしていかなければなりません」とまちづくりへの提案をする。店内には、地元の人やお客さんとの結びつきを大事にする小松さんと商店街の仲間が発行している新聞や、小松さんの好きな言葉「ありがとうのひと言が言いたくて いつも感謝の心でいっぱいです」と書かれた紙が所



## こまつひろゆき 小松博之さん

平鹿中央商工会青年部大雄支部長  
(36歳・大雄地域)

大雄村商店街で電化店を経営。  
平成17年度サマーフェスティバル実行委員長を務める。地元の活性化の一翼を担う若手経営者。

平鹿病院の看護師として地域医療の最前線で活躍。地元山内では、山内保育園保護者会会長を務めるなど、仕事と子育てに奮闘中。2児の母。

## たかはしなおみ 高橋直美さん

山内保育園保護者会会長(34歳・山内地域)

「仕事柄、湯沢市や秋田市など、接している人の範囲が広いので、合併したという実感はなかなか沸いていません。ただ最近は患者さんに『合併して横手市民になったね』と声を掛けられる機会が多くなって、少しずつですが、私も村民から市民になつたんだと感じ初めています」と語る高橋さんは、平鹿病院に勤務する看護師さん。今年四月からは、山内保育園の保護者会会長として仕事を育てに奮闘する毎日を送っている。

「合併に期待することは、何よりも高齢者社会への対応と子育ての広域的なサポート。現在も病院の受付



にはボランティアで補助をしてくれるのはいますが、まだまだ不十分。おじいさんがおばあさんの車椅子を押して病院に診察に来る。その逆の光景もよく見られます。そんな光景を目にするとたびに、何とかならないものかといつも感じています。合併により、情報の広域化が図られるこによってボランティア組織が強化されれば、このような問題は少しづつでも解決へ向かうのでは。

子育てについては、他の地域にある保育園や保護者会との交流、情報交換会などが出来たらと思います。私の仕事は三交替勤務のため、他の保護者の方と情報交換する機会が不足気味。さまざまな地域の保護者と交流することによって、子育てに何が求められているのか、子どもたちが何を不安に思っているかなど、自分が役立てられるような場を提供してほしいですね」と医療と子育て、両方の立場で合併に対する期待を寄せる。また、現在建設中の

新平鹿病院については「最新の医療を提供できることは喜ばしいことでありますが、駅前から病院がなくなつてしまふことに不安を抱くお年寄りの声を耳にします。利用される人が不便を感じない体制づくりができたら」と移転の問題点を指摘する高橋さん。「とにかく、明るいニュースを提供し続けるまちづくりを展開してほしい」と最後は笑顔で語ってくれた。



明るいニュースを提供し続けるまちづくりを

合併により誕生した新「横手市」で初めての選挙となる「横手市長選挙・横手市議会議員一般選挙」が、10月23日(日)に実施されます。

今回の選挙は、今後の市政を方向づける市長や市議会議員を選出する最も身近で大切な選挙です。

棄権することなく、あなたの貴重な一票をまちびぐりに反映させましょう。

# 新「横手市」の未来に あなたの一票を!!

# 10月23日(日)は



## 横手市長選挙・横手市 議会議員一般選挙の

# 投票日 です!

<b>投票所</b>	入場整理券に記載されている投票所を確認してください。入場整理券は、16日頃まで郵送されます。なお、投票日が近くなっても配達されない場合は、選挙管理委員会事務局にお早めにご連絡ください。
<b>期日前投票</b>	選挙の当日に仕事や旅行など、やむを得ない事情により投票所に行けない方は期日前投票することができます。
<b>不在者投票</b>	【時間】午前8時30分～午後8時 期日前投票は、受付期間内であれば、表②の投票所で投票できます。 投票の際は、入場整理券を持参してください。
<b>開票所</b>	入院等により病院施設に入所されている方は、指定施設であれば不在者投票ができます。入所されている先の病院長または施設長にご確認ください。また、出張や出稼ぎ等の方々は、市選挙管理委員会に投票の請求をすることにより、不在所投票ができます。お早めに選挙管理委員会にご連絡ください。
<b>郵便投票</b>	市長及び市議会議員に立候補した各候補者の政見をお知らせするため、各世帯に選挙公報をお届けします。投票の参考にしてください。

<b>投票所</b>	入場整理券に記載されている投票所を確認してください。入場整理券は、16日頃まで郵送されます。なお、投票日が近くなっても配達されない場合は、選挙管理委員会事務局にお早めにご連絡ください。
<b>期日前投票</b>	選挙の当日に仕事や旅行など、やむを得ない事情により投票所に行けない方は期日前投票することができます。

○期日前投票所の受付期間及び時間

【期間】10月17日(月)～22日(土)

投票所に記載されている投票所を確認してください。入場整理券は、16日頃まで郵送されます。なお、投票日が近くなっても配達されない場合は、選挙管理委員会事務局にお早めにご連絡ください。

選挙の当日に仕事や旅行など、やむを得ない事情により投票所に行けない方は期日前投票することができます。

投票所の受付時間が長い場合、投票所に記載されている投票所を確認してください。入場整理券は、16日頃まで郵送されます。なお、投票日が近くなっても配達されない場合は、選挙管理委員会事務局にお早めにご連絡ください。

投票所に記載されている投票所を確認してください。入場整理券は、16日頃まで郵送されます。なお、投票日が近くなっても配達されない場合は、選挙管理委員会事務局にお早めにご連絡ください。

◆ 問合せ 横手市選挙管理委員会

(☎) 32-12537



あなたの一票  
そこから生まれる  
新横手

【郵便投票ができる方】		
戦病者手帳		身体障害者手帳
障害の程度	障害の部位	障害の程度
特別項症～第2項症	両下肢・体幹	1級・2級
	移動機能障害	
特別項症～第3項症	心臓・腎臓 呼吸器・ぼうこう 直腸・小腸	1級・3級
	免疫の障害	1級～3級
介護保険の要介護度		
要介護5		

表③

【期日前投票所】

投票所名	所在地	設置期間
横手地域局	横手市中央町8番2号	平成17年10月17日
増田地域局	横手市増田町増田字土肥館173番地	平成17年10月22日
平鹿地域局	横手市平鹿町浅舞字浅舞393番地	
雄物川地域局	横手市雄物川町今宿字鳴田1番地	
大森地域局	横手市大森町字大中島268番地(就業改善センター)	
十文字地域局	横手市十文字町字街道下6番地1(十文字B & G海洋センター)	
山内地域局	横手市山内土渕字二瀬8番地4	
大雄地域局	横手市大雄字三村東18番地	

表①

【繰り上げとなる投票所】

●増田地区	亀田・戸波 吉野・荻袋 小栗山・上畠	午前7時から午後6時30分まで 午前7時から午後6時まで
●雄物川地区	矢神・郷 二井山・坂の下	午前7時から午後6時まで
●大森地区	武道・坂部	午前7時から午後6時まで

表②

お手数ですが  
50円切手を  
お貼り下さい

0138601

横手市前郷字下三枚橋163

## 横手市役所 秘書広報課 行

フリガナ	○ご氏名		
○年齢	歳	○性別	男・女
○ペンネームまたはイニシャル			
※記入がない場合、実名で掲載させていただきます。			
○ご住所			

○電話 ( ) -

### 「市報よこて」では 市民の皆さんからのお便りをお待ちしています

横手市役所秘書広報課では、市民の皆さんとのさまざまなご意見や、市報よこてへの情報提供をお待ちしています。明るく楽しいページを市民の皆さんのお手で作ってみませんか。

#### ○ご意見をお寄せの方

市報よこてを読んでみての感想やご意見のほか、日頃考えていることや感じていることなど、テーマを問わず募集します。本ページの上部のはがきを切り抜いてご利用ください。なお、お寄せいただいたご意見は、市報よこての紙面上で紹介させていただきます。

#### ○市報よこてへの情報掲載を希望される方

各種イベントの案内、サークルの会員募集など、市報を通じて市民の皆さんにお知らせしたいことがありましたら、掲載を希望する内容がわかるものを下記までご提出ください。

提出にあたって、様式等は問いません（上部のはがきを使用する必要はありません）。また、記事の内容や情報量によっては、ご希望に添えない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

詳しくは、  
〒013-8601 横手市前郷字下三枚橋163  
横手市役所 本庁南庁舎 秘書広報課広報広聴担当  
電話 35-2162（直通） フax 33-6061  
メール koho@city.yokote.lg.jp  
までお問い合わせください。

# INFORMATION 情報

●お知らせのページ●

## おしらせ



### 林道が通行止めに

今年6月に発生した豪雨災害の復旧工事のため、10月から来春の雪消えまでの期間、次の路線の一部が通行止めになります。詳細については、各地域局産業振興課農林担当へお問い合わせください。

#### 区域一 路線名

横手一大屋沢線、滝ノ沢線、  
増田一大沢滝ノ下線  
粗半内上沼線  
大滝沢線  
平鹿—明沢道満線  
山内—南郷岳線

#### 個人事業税納付を忘れずに

11月30日は、個人事業税の第

### 死亡事故が多発しています

横手警察署管内で、交通事故が連続して発生しています。今年に入ってからは死者数が6人となり、昨年同時期より5人が増えています。一人ひとりが交通事故を防止するため、次のことについて注意しましょう。  
○夕暮れ時の歩行および自転車乗車中の事故防止  
○シートベルトとチャイルドシートの着用  
○飲酒運転はしない、させない（横手警察署から）

### 催し



#### まちづくりフォーラム

街を元気にするためにには、そこに住む一人ひとりのパワーが求められています。楽しい地域を作りたいと思っている皆さんのお参加をお待ちしています。

### 初級ハングル語講座

NPOセンター

1,000円全2回

主催

NPO法人秋田県南

「ワーキショップ」

11月18日（金）午前10時

会場

県南部市民活動

申込み

県南部市民活動

主催

サポートセンター

33-17002

日程

11月11日（金）午後1時30分

「パネルディスカッション」

11月18日（金）午前10時

会場

横手ハンガル研究会

申込み

月2,500円（初回

テキスト代3,000円）

受講料

横手ハンガル研究会

場所

横手ハンガル研究会

期間

11月から来年3月まで

の毎週水曜日全20回

午後6時30分～8時

申込み

午前10時から

申込みください

33-17018

講師

横手ハンガル研究会

場所

横手ハンガル研究会

期間

11月から来年3月まで

の毎週水曜日全20回

午後6時30分～8時

申込み

午前10時から

申込みください

33-17018

講師

横手ハンガル研究会

場所

横手ハンガル研究会

期間

11月から来年3月まで

の毎週水曜日全20回

午後6時30分～8時

申込み

午前10時から

申込みください

33-17018

講師

横手ハンガル研究会

場所

横手ハンガル研究会

期間

11月から来年3月まで

の毎週水曜日全20回

午後6時30分～8時

申込み

午前10時から

申込みください

33-17018

講師

横手ハンガル研究会

場所

横手ハンガル研究会

期間

11月から来年3月まで

の毎週水曜日全20回

午後6時30分～8時

申込み

午前10時から

申込みください

33-17018

講師

横手ハンガル研究会

場所

横手ハンガル研究会

期間

11月から来年3月まで

の毎週水曜日全20回

午後6時30分～8時

申込み

午前10時から

申込みください

33-17018

講師

横手ハンガル研究会

場所

横手ハンガル研究会

期間

11月から来年3月まで

の毎週水曜日全20回

午後6時30分～8時

申込み

午前10時から

申込みください

33-17018

講師

横手ハンガル研究会

場所

横手ハンガル研究会

期間

11月から来年3月まで

の毎週水曜日全20回

午後6時30分～8時

申込み

午前10時から

申込みください

33-17018

講師

横手ハンガル研究会

場所

横手ハンガル研究会

期間

11月から来年3月まで

の毎週水曜日全20回

午後6時30分～8時

申込み

午前10時から

申込みください

33-17018

講師

横手ハンガル研究会

場所

横手ハンガル研究会

期間

11月から来年3月まで

の毎週水曜日全20回

午後6時30分～8時

申





市民主催の催し等をお知らせするコーナーです

## 増田地域センター ミニ企画展 サーキットからの風 一岡由子 写真展

増田地域センターでは、地域で個々に創作活動をしているかたがたが気軽に作品を公開できるように「ミニ企画展」を開催してきました。今回はその第11弾として「一岡由子写真展～サーキットからの風～」を10月16日から23日まで、増田ふれあいプラザを会場に開催します。一岡由子さん（33歳）は、横手市在住の会社員で、増田地域との交流があることをきっかけに、市町村合併後最初のこの企画展に参加してくれました。今回の企画展では地方レースやフォーミュラ・ニッポン等を取材していた頃に撮影した写真約30点を展示する予定です。また23日には一岡さんと親交のある増田町のバンド仲間が応援ライブとして同会場に駆けつけることになっています。これを機会に是非、「一岡由子の世界」を体験してみてはいかがでしょうか。詳しくは増田地域センター（増田ふれあいプラザ内☎45-5556）まで。

※10月17日（月）は休館日です。

**国際ソロプチミスト横手  
チャリティ・ワインパーティ**  
日 時●10月19日(水)午後6時30分から  
場 所●横手ステーションホテル  
会 費●3,500円(収益金は、歳末たすけあい運動等に寄付させていただきます)  
問合せ●鶴田さん☎33-7337

**新「横手市」誕生記念 横手のど自慢交流大会**  
日 時●10月22日(土)午後1時30分開演  
場 所●ふれあいセンターかまくら館  
入場料●無料  
問合せ●ふれあいセンターかまくら館☎33-7111

**歌の好きな人集まれ! 思いつきり歌声喫茶**  
日 時●11月10日(木)午後7時開演  
場 所●レストラン煉瓦屋3階(寿町)  
曲 目●秋桜、枯葉ほか  
参加料●800円(軽食付き)  
問合せ●レストラン煉瓦屋☎33-2811

**いこいの森 秋の自然観察会  
「森の七色を観てみよう」**  
日 時●10月22日(土)午前10時から  
場 所●いこいの森(かんぽの宿 横手に集合)  
参加料●無料  
問合せ●秋田県自然観察指導員雄平会  
藤井さん☎33-9765

**真美会 秋の洋画展**  
日 時●11月5日(土)~8日(火)  
午前10時~午後5時  
場 所●ふれあいセンターかまくら館  
入場料●無料  
問合せ●真美会事務局 掛札さん☎32-5545

**自然を愛する皆さんの集い**  
日 時●11月20日(日)午後1時開演  
場 所●レストラン煉瓦屋3階(寿町)  
内 容●おはなし会、コンサート  
参加料●800円(軽食付き)  
問合せ●レストラン煉瓦屋☎33-2811

豊かな自然 豊かな心 夢あふれる田園都市



平成17年10月15日号(創刊号)

発行／横手市役所 編集・デザイン／総務企画部秘書広報課  
〒013-8801 横手市前郷字下三枚橋163  
☎ 0182-36-2162 ☎ 0182-33-6061

SOYINK  
R100  
有機JAS認定商品  
大豆油を主に大豆油インクを使用しています